

## 第1章 TRYしてみよう解答

- ①人は受胎してから（死）に至るまで発達する。
- ②発達とは、獲得と（消失）を繰り返しながら環境に適応していくプロセスである。
- ③ワトソンは、人の人格やさまざまな能力は生後の経験（学習）によってつくられる、という（環境優位）説を唱えた。ゲゼルは、（成熟（レディネス））に達する以前の経験（学習）は、遺伝的に定まっている発達の経過を変えることはない、と主張した。
- ④ジェンセンの環境閾値説の考えによれば、例えば、楽器の演奏における極めて高い技能は、（環境）が最適であるときに遺伝的な素質が発揮される。
- ⑤人の場合、特定の能力の発達には臨界期的性格を持つ時期である（敏感）期があるが、後の経験によって回復や変化が可能であることを、発達の（可塑）性という。
- ⑥生態学的システム理論の考えによれば、例えば、子どもが通う学校が背後に持つ環境としての教育委員会は、（エクソ）システムとして、子どもに影響を及ぼす。
- ⑦フロイトによれば、口唇期・肛門期・（エディプス（男根））期という乳幼児期の経験が、（初期）経験として、人の発達にかけがえのない重要な意味をもたらす。
- ⑧エリクソンが生涯発達の中心的な課題であるとしたのは、青年期における（アイデンティティ（自我同一性））の獲得である。
- ⑨アタッチメントとは、危機的な状況の際に特定の他者に近接し、それを通して、自らが「（安全）であるという感覚」を確保しようとする行動制御システムである。
- ⑩アタッチメントは、（応答）性に富んだ相互交流をし、温かく（保護）してくれる人に対して形成される。

## 第2章 TRYしてみよう解答

- ①ピアジェの認知発達段階理論において、（前操作）期の特徴には自己中心性が挙げられる。
- ②自然現象などを含め、世の中に存在するものすべてに対して人間の力で操ることができるという考え方を（人工論）という。
- ③ピアジェの認知発達段階理論において、自己中心性から脱することを（脱中心化）という。
- ④（素朴物理学）は、物理学に関する素朴理論である。
- ⑤前言語期の乳児に見られる意味を持たない発声を（喃語）という。
- ⑥1歳頃に産出される初めて意味を持ったことばを（初語）という。
- ⑦（一次のことば）とは、家族や友達など親しい人との会話で使われる、文脈や状況に依存したことばである。
- ⑧ヴィゴツキーは、外側に向けて発せられる外言から、思考の道具としての（内言）へとことばの移行が幼児期に見られるとした。
- ⑨将来の発達可能性について、ヴィゴツキーは、（発達の最近接領域）と呼んだ。
- ⑩発達の最近接領域を伸ばすためには、教師や指導者の（足場かけ）が重要である。

### 第3章TRYしてみよう解答

- ① (マズロー) は、欲求を階層的に捉え、低次の欲求から順に満たしていくという欲求階層説を提唱した。
- ② 欲求階層説において、最初に満たされるとされているのは (生理的欲求) である。
- ③ 欲求階層説において、最も高次に位置づけられているのは (自己実現の欲求) である。
- ④ 「楽しいから学習する」のように、自身の内的な要因による自発的な取り組みを促す動機を (内発的動機づけ) という。
- ⑤ 内発的動機づけによって課題に取り組んでいた学習者に報酬を与えると、内発的動機づけによる取り組みが低下してしまうことを (アンダーマイニング現象) という。
- ⑥ ある行動について、やればできるという自分なりの自信、有能感を (コンピテンス) という。
- ⑦ ある課題について、より高い水準で成し遂げたいという動機を (達成動機) という。
- ⑧ 成功したことや失敗したことなど、何らかの行動の結果についての原因を求めることを (原因帰属) という。
- ⑨ スポーツや芸術など、特定の活動にのめり込み、深く没入している状態を (フロー) という。
- ⑩ 自らコントロールできないような嫌な事態が続いた結果、無気力に陥ることを (学習性無力感) という。

### 第4章TRYしてみよう解答

- ① パブロフは、イヌに対してベルの音と肉粉の対提示を反復する実験を行って条件反射を引き出し、 (古典的 (レスポナント)) 条件づけを唱えた。
- ② (ソーンダイク) は、動物が試行錯誤しながら特定の行動を習得する試行錯誤学習を提唱した。
- ③ スキナーは、動物の自発的行動の生起頻度を強化によって高める (オペラント (道具的)) 条件づけの研究を行った。
- ④ 洞察学習を提唱したのは、ゲシュタルト心理学者の (ケーラー) である。
- ⑤ アトキンソンとシフリンは、人間の学習・記憶のモデルとして (情報処理モデル) を提案した。
- ⑥ (短期記憶) は、持続時間が短く、容量も  $7 \pm 2$  チャンク程度である。
- ⑦ 宣言的記憶には、一般的知識や事実に関する意味記憶と、自分が過去に経験した出来事に関する (エピソード記憶) がある。
- ⑧ プログラム学習は、 (スキナー) がオペラント条件づけの原理に基づいて開発したシェイピングによる学習指導法である。
- ⑨ (発見学習) は、学習者が主体的に課題に取り組む中で自らが知識を構成していく過程を支援する学習指導法であり、ブルーナーによって提唱された。
- ⑩ オーズベルが提唱した (有意味受容学習) は、学習者が学習内容の意味を理解できるように、学習者の認知構造に関連づけて情報を提示する学習指導法である。

## 第5章TRYしてみよう解答

- ① 脳の発育の過程において何らかの要因により脳の発達が阻害された結果、認知・対人社会性・言語・運動などの発達に障害（困難）をきたしている状態を（発達障害）という。
- ② 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す障害を（学習障害（LD））という。
- ③（ディスレクシア）は、神経学的基盤の発達障害によって読み書きの習得のみに困難を示す障害である。
- ④ 自分自身の認知についての認知は（メタ認知）と呼ばれ、教授・学習において重要な概念である。
- ⑤（スキーマ）とは、知識を構造化する認知的枠組みであり、関連する知識を組み合わせる意味のあるまとまりをつくり出す。
- ⑥（ワーキングメモリ）では、感覚記憶から送られてきた情報の活性化や操作を行う。
- ⑦ 記憶項目を系列に従って順番に覚え、自由再生した場合、系列の終盤にある項目をよく覚えていることを（新近効果）という。
- ⑧（再生）は、記銘項目を提示した後、どのようなものであったかを口頭、筆記、あるいは行為により生成することを求める方法である。
- ⑨ 学習は、初めに急速に進むが、途中で進歩が止まって停滞し、その後、再び進歩が見られる。このように途中で停滞する現象を（高原現象（プラトー））という。
- ⑩ 学習した内容は、通常、学習の直後に最も保持成績が良いが、条件によっては、しばらく時間が経過してからの方が良い場合もある。この現象を（レミニセンス（レミニッセンス））という。

## 第6章TRYしてみよう解答

- ① 知能指数で120～129の範囲を「優秀」といい、（70～79）の範囲を境界域知能という。
- ② 精神年齢（MA）の始まりは、1905年の実験心理学者の（ビネー）による。
- ③ CAとは（生活年齢）のことである。
- ④ 1916年に（ターマン）によって提唱された初期の知能指数は、（精神年齢（MA））／（生活年齢（CA）・暦年齢）×100として考えられた。
- ⑤（偏差IQ）＝（個人の得点－同年齢集団の平均得点）／（16（15）×同年齢集団の標準偏差）＋100
- ⑥ 一般知能と特殊知能からなる知能の2因子説を提唱したのは（スピアマン）である。
- ⑦ 知能の多因子説を提唱したのは、（サーストン）である。
- ⑧ ギルフォードは、（三次元）からなる知能構造モデルを提唱した。
- ⑨ 流動性－結晶性知能は、（キャッテル）により位置づけられた。
- ⑩ 1997年にマグルーは、知能におけるこれまでのモデルを統合した（キャッテル・ホーン・キャロル理論（CHC理論））を提唱した。

## 第7章TRYしてみよう解答

- ①クレッチマーの類型論の「細長型」に対応するのは（分裂）気質である。
- ②シェルドンは内胚葉型、中胚葉型、外胚葉型に対応する気質として、（内蔵緊張型）、（身体緊張型）、（頭脳緊張型）を挙げている。
- ③ユングは、心的エネルギーの方向性から（外向）型と（内向）型を設定した。
- ④オルポートは共通特性よりも（個人的）特性を重視した。
- ⑤キャッテルの理論に基づいて（16PF）人格検査が作成された。
- ⑥アイゼンクは（外向性－内向性）と（神経症傾向）を組み合わせた2次元平面上に個人を位置づけ、パーソナリティの違いを説明した。
- ⑦アイゼンクの理論は（特性論）と（類型論）を統合した立場といわれ、類型は排他的なカテゴリーではなく連続したものと考えられている。
- ⑧（ビッグファイブ）とは、パーソナリティ特性5因子論のことであり、略号を並べ替えてOCEANモデルと呼ばれることがある。
- ⑨フロイトは（エス（イド））、（自我）、（超自我）という独自の機能を持つ3つの領域でパーソナリティ構造を説明している。
- ⑩レヴィンは人の行動は（人）と（環境）の相互作用によって規定されると考えた。

## 第8章TRYしてみよう解答

- ①標準化作業を通じて信頼性と妥当性を確保した評価方法を（フォーマル・アセスメント）と呼ぶ。
- ②（インフォーマル・アセスメント）という評価方法は、労力が少なく個人を評価できるが、厳密さに欠けるという欠点を持っている。
- ③（質問紙法検査）は、回答用紙に答えることで個人を評価する性格検査である。
- ④（投影法検査）は、曖昧な課題を用いることで無意識の性格傾向を評価できる。
- ⑤ウェクスラー式知能検査は（偏差IQ）で全体的な知的水準を表す。
- ⑥本人と対面して会話する（面接）は、代表的なインフォーマル・アセスメントである。
- ⑦ブルームは教育活動の評価をそのタイミングから、診断的評価、（形成的評価）、総括的評価の3つに分類した。
- ⑧到達度ではなく、ある集団との比較による評価を（相対評価）という。
- ⑨（自己評価）は評価自体が自己調整や自己管理を伸ばすことに大きく寄与する。
- ⑩パフォーマンス評価を実施する際には、事前に（ルーブリック）を作成し、評価の基準を準備しなければならない。

## 第9章TRYしてみよう解答

- ①自分の行動を調整する際に、他者の動作や表情を行動の可否などの手掛かりにすることを（社会的参照）という。
- ②生後9カ月頃より（共同注意）が成立するようになると、それまで二項関係のみだったコミュニケーションが、三項関係を含むものへと質的に変化する。
- ③共感とは、他者と類似の情動を経験する（情動的）共感と、他者の視点に立つて置かれた状況にふさわしい感情を理解する（認知的）共感に分けられる。
- ④意図や信念などの直接観察することのできない他者の心の状態を推測する能力は（心の理論）と呼ばれ、その発達をみとるための代表的な課題として（誤信念課題）がある。
- ⑤他者の利益になることを意図して行う行動は（向社会的行動）と呼ばれ、生後2年目頃より見られるようになる。
- ⑥互いに助け合うことで両者とも利益を受けられるような関係性は（互恵性）と呼ばれる。
- ⑦（コールバーグ）は、複数の道徳的価値が両立しない（モラルジレンマ）の場面を用いた検討から、3水準・（6）段階からなる道徳性の発達段階論を提唱した。
- ⑧ギリガンは、道徳性の性差に着目し、多くの男性は公正さの道徳を発達させていくのに対し、多くの女性は（配慮）と責任の道徳を発達させていくと主張した。
- ⑨就学前の子どものいる園などで、遊具の取り合いなどから子ども同士のいざこざが生じた際、「自分が先に使っていた」と占有権を主張する（先占の主張）がされることがある。
- ⑩小学校入学以降、仲良しグループ、男女別・クラス別グループなどの集団に属しているという自覚である（集団所属意識）が出てくる。

## 第10章TRYしてみよう解答

- ①学級集団は意図的に構成された（フォーマル）・グループであり、自然発生的に成立する仲間集団のような（インフォーマル）・グループとは異なる。
- ②仲間集団は（ギャング）・グループからチャム・グループ、ピア・グループへと発達していく。
- ③学級集団の査定では、子どもの側からの（ソシオメトリック）・テストやゲスファー・テストなどがある。
- ④ローゼンタールとヤコブソンによって提唱された（ピグマリオン）効果は、教師期待効果ともいわれている。
- ⑤ある人の特定の側面について望ましいと評価すると、事実を確かめずにその人の他の側面や全体も望ましいと評価してしまう現象を（ハロー効果）という。
- ⑥PM理論とは、リーダーシップを課題達成機能である（P機能）と集団維持機能の（M機能）の2次元で捉えるものである。
- ⑦学級経営について、近藤邦夫は教師と子どもの相性である（マッチング）に注目し、教師用

RCRT を活用するなど、教師の子どもを見る視点を重視している。

- ⑧子どもの問題行動は、不登校や引きこもりなどの（非社会的行動）と、非行や教師への反抗などの（反社会的行動）とに分類される。
- ⑨近年、学級集団への不適応の予防策として、（ソーシャル・スキル）・トレーニングとアサーション・トレーニングなどが学級で実施されることが多い。
- ⑩学級崩壊やいじめなどが起きた際には、（問題行動をしない）子どもへの関わりが重要となる。

## 第 11 章 TRY してみよう解答

- ①教師には、子ども一人一人の（ニーズ）に応じた成長・発達を支援する役割がある。
- ②教師による子どもの成長・発達に対する 3 つの援助段階のうち、日常的に子どもの健康を保ち、危機を予防するのは（一次的）援助である。
- ③教師には、指導する役割と、（カウンセリング・マインド）を持って子どもを理解し受け止める役割がある。
- ④（小 1 プロブレム）対策の一つである幼小接続期カリキュラムには、就学前のアプローチカリキュラムと、小学校入学後のスタートカリキュラムがある。
- ⑤不登校を生む社会的要因のうち、子どもの社会性の発達の問題が指摘される。その背景に、他児と関わるために必要な「三間（時間・空間・仲間）」の減少がある。
- ⑥小学校低学年児童の不登校の背景に見られやすい問題として、（分離不安）がある。
- ⑦いじめは、集団の相互作用的な（いじめの 4 層構造）の中で生じる。
- ⑧ネットいじめの対策の一つに、低学年時からの（情報モラル）教育がある。
- ⑨児童虐待の中で最も多い心理的虐待の中には、子どもの前で親が配偶者に暴力を振るう、（面前 DV）が含まれている。
- ⑩虐待を受けた子どもが、わざと大人を怒らせるような行動である（リミット・テストイング）を行うのは、慣れ親しんだ環境を再現しようとするからである。

## 第 12 章 TRY してみよう解答

- ①「練習に参加したくないが、大会で負けたくない」は、（回避－回避）型のコンフリクトである。
- ②好きな人にわざと冷たくするなど、本当の感情や欲望の表出を防ぐ適応機制を（反動形成）という。
- ③自分に受け入れがたい状況について、本当の原因は自分にあるのに、他の理由を持ち出して自分を正当化する適応機制を（合理化）という。
- ④（PTSD（心的外傷後ストレス障害））とは、自分の生命の危険など、過去の過酷な体験がトラウマとなり、不安や不眠、疲労などの症状が現われるものである。

- ⑤ (ラポール) とは、クライアントとカウンセラーとの間につくられる信頼関係のことである。
- ⑥ クライアントの自発的な力によって問題解決や成長を促すカウンセリングの立場を (非指示的カウンセリング) という。
- ⑦ (フロイト) が提唱した精神分析療法は、抑圧された無意識の内容を意識化することによって症状の消失を目指す心理療法である。
- ⑧ (ロジャーズ) は、クライアントは自ら解決し成長する力を持っており、それを援助することが大切だとするクライアント中心療法を提唱した。
- ⑨ (遊戯療法) は、言語表現が十分ではない子どもを対象とし、遊びを主な表現手段として治療関係をつくり上げていくものである。
- ⑩ (行動療法) では、学習理論に基づいて不適切行動を適切行動へと修正する。

### 第 13 章 TRY してみよう解答

- ① 障害のある子どもが、他の子どもと平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者および学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことを (合理的配慮) という。
- ② 視覚障害は障害程度により、主に視覚以外の感覚により日常生活を送り、点字による学習が中心となる盲と、拡大鏡など支援ツールを使うことで墨字学習 (通常の文字による学習) ができる (弱視) に分かれる。
- ③ 音のエネルギーが内耳の感覚細胞を刺激するまでの部分で聞こえにくい状態となる (伝音難聴) では、補聴器の使用が効果的である。
- ④ 18 歳未満の肢体不自由児に占める割合は、(脳性麻痺) が多い。
- ⑤ 病弱とは、疾病が長期にわたる、または長期にわたる見込みのもので、その間、医療または (生活規制) が必要なものを指す。
- ⑥ 知的障害は、知的機能と (適応行動) の双方の明らかな制約によって特徴づけられる能力障害である。
- ⑦ LD は、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、(計算する) または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。
- ⑧ ADHD は、①不注意症状及び/または②多動・衝動性症状が診断基準の 9 項目中 6 項目以上該当し、(6) カ月以上持続して、さまざまな場面で不適応状態に至るものとされる。
- ⑨ ASD 児は状況理解や見通しをつけることが苦手なため、どこで何をするかなどの指示やルールを具体的に目で確認できるようにイラストや写真で示す ((視覚的) 構造化) による支援が有効である。
- ⑩ 知的能力障害、視覚障害および運動に影響を与える神経疾患がないにも関わらず、協調運動技能の獲得や遂行が明らかに劣り、不器用、運動技能の遂行における遅さと不正確さを示す障害は、(DCD (発達性協調運動障害 (症))) である。